

第5回(最終回) 三木千壽学長インタビュー

# 創立100周年、 Best Value University を目指して

創立90周年記念 連載企画の最終回は、  
三木千壽学長に、進化し続ける都市大の現状と、  
2029年の創立100周年に向けて、  
これからの都市大が目指す姿などについて伺います。



東京都市大学 学長 **三木千壽**

1947年徳島県生まれ。東京工業大学工学部土木工学科卒業。同大学院理工学研究科土木工学専攻修士課程修了。  
1979年工学博士(東京工業大学)。専門は構造工学、鋼構造学、橋梁工学。東京工業大学工学部教授、同工学部長、  
副学長(教育・国際担当)などを経て、2015年1月1日、本学10代目学長に就任。

「アクションプラン2030」を策定し、  
教育、研究などあらゆる分野で改革を推進中

—都市大は2019年に創立90周年の節目を迎えました。これまでの歴史を踏まえて、学長の考える「都市大の強み」についてお聞かせください。

**三木千壽学長(以下学長)** 本学の源流の一つである武蔵高等工科学校(後の武蔵工業大学)は、「もっと実験や実習で腕を磨きたい」と切に願った学生たちの熱意が創り上げた、希有な大学です。その熱い思いから生まれた「実践力」という本学の強みは、90年前から途切れることなく受け継がれています。「就職に強い都市大」というブランドも、優れた実践力が社会から高く評価されているからに他なりません。

—10年後の100周年(2029年)を視野に、中長期計画「アクションプラン2030」(以下、アクションプラン)に取り組んでいると聞いています。アクションプランとはどのようなものでしょうか?

**学長** アクションプランは、私が学長に就任した2014年度からスタートした計画で、「『都市』をキーワードに時代の要請に取り組み、国際都市東京で存在感を示す有数の大学」を目標に掲げ、教育・研究、学生支援、キャンパス環境などあらゆる分野での改革を行うものです。具体的には、入学から卒業までの間に、学生たちの能力をいかに高めるかを尺度に「Best Value University(教育付加価値最大の大学)」を目指し、「世界で活躍できる、専門的実践力を有する人材」を育成します。

教育付加価値の向上と  
研究活動を充実させるため多彩な施策を実施

—教育付加価値を高めるために、どのような施策を行っていますか?

**学長** 学生が卒業時まで真の実力を身につけられるよう、さまざまな改革を行っています。たとえば、1年間を4期に分けて、短期間で集中して学ぶ「クォーター制」や、履修できる単位数の上限を設定して自学自習の充実を図る「CAP制」などを導入しました。また、学修の習熟度を学生と教職員とが共有し、学年ごとに目標到達度を確認しながら、卒業時には4年間で身につけたスキル、知識を可視化する「ディプロマ・サプリメント」も用意しています。

—研究面では総合研究所 未来都市研究機構による「都市研究の都市大」が始まりました。都市大における「研究の強み」をお聞かせください。

**学長** 都市の抱えるさまざまな課題の解決を目指す「未来都市研究機構」を総合研究所内に設置し、学部学科の枠を超えた、全学的取り組みとしてインフラ、環境、情報、生活、健康といった領域で「未来都市」のあるべき姿を探求しています。研究の質は、教育の質と直結するため、研究活動の充実は、大学として最優先で取り



3月29日、世田谷キャンパスで行われた未来都市研究機構のシンポジウムの様子。



### キャンパス再整備

世田谷キャンパスの既存校舎(10,13,15,16号館)を解体し、新たに仮称A棟・B棟の2棟を建設。A棟は等々力キャンパスの2学部(都市生活、人間科学)、B棟は理工学系の教育研究施設を中心とした建物となる予定です。

2023年の世田谷キャンパス完成図(予定)

組むべき課題です。例えば、本学は電気・建築・土木からスタートし、その後、エネルギー、通信、環境、情報など、さまざまな特色ある研究を展開してきました。こうした都市大ならではの研究活動に対しても、世界標準の研究評価システムを導入するなどして、研究のモチベーションが上がるよう工夫しています。結果として、文部科学省の科学研究費助成事業(科研費)の2019年度獲得額は前年比3割増、共同・受託研究費を合わせた外部資金の総額も2017、2018年度連続で10億円を超え、着実に研究力が向上していることがわかります。

### 学修環境を改善するキャンパスリニューアルや国際人の育成にも力を注ぐ

—キャンパス再整備事業についてお聞かせください。

**学長** アクションプランの一環として、2019年度から23年度にかけて、世田谷キャンパスの約3分の1をリニューアルします。既存の校舎を解体して新棟2棟を順次建設、等々力キャンパスと総合研究所を世田谷キャンパスに移設する計画です(詳細は34P参照)。

—グローバル人材の育成についてはいかがでしょうか?

**学長** 1・2年次を対象とした東京都市大学オーストラリアプログラム(TAP)や、TOEIC600点以上の全学生を対象とするカンタベリー大学留学プログラム(TUCP)の他、アジア・大洋州5大学連合(AOFUA)も本格的に始動しています。今年7月には、本学世田谷キャンパスと八ヶ岳山荘で、4日間



TAPやTUCPなど本学独自の留学プログラムには年間700名が参加します。(2019年度予定数)

にわたりAOFUA初のサマーキャンプを開催しました(詳細は4P参照)。また、国際学生寮を世田谷キャンパス近くにオープンするなど、学内の国際化にも取り組んでいます。

このような本学のさまざまな取り組みは、文部科学省の平成30年度「私立大学等改革総合支援事業」の全5タイプに選定されています。同事業は、タイプ1「教育の質的転換」、タイプ2「産業界との連携」、タイプ3「他大学等との広域・分野連携」、タイプ4「グローバル化」、タイプ5「プラットフォーム形成」の5分類になりますが、これらすべてに選定されたのは、全国に603校ある私立大学の中で、本学が唯一となります。このことから、東京都市大学の取り組みが幅広い領域で高く評価されていることがお分かり頂けることと思います。

### 創立100周年、さらにその先の未来に向かって都市大は常に進化を続けていく

—学生や保護者の皆さんにメッセージをお願いします。

**学長** アクションプランの策定から約5年、スピード感をもって改革に取り組んだ結果、10年後の創立100周年に向けて設定した目標の一部はすでに達成しております。現在は、より高い到達地点を目指し、変化する環境にも適応した具体的な施策を新たに検討しています。併せて、これからの10年は、創立100周年、さらにその先の100年のビジョンとプランを考える時だと考えています。

学生、保護者の皆様には、どうか本学を信頼し、私たちが用意するプログラムやカリキュラムに真剣に向き合ってほしいと思います。本学は“Best Value University”を目指し、本当に「都市大で学んで良かった。世界で活躍できる実践力と専門力が身についた」と、そう思っていたら大学を必ずや創り上げていきます。